

2026

9.16 (水) 12:10
12:50

12:10-12:15

◆発表者紹介

12:15-12:40

◆プレゼン

12:40-12:50

◆質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_Vv1vN4a9QPihO4mXDb2J4w

【技術支援】九州大学 Q-AOS

女性と生まれてくる子どもの
健康と幸せのために我々がなすべきこと3 すべての人に
健康と福祉を5 ジェンダー平等を
実現しよう17 パートナシップで
目標を達成しよう

Key Words

産婦人科

女性

周産期医療

復帰支援

加藤 聖子 名誉教授

九州大学 医学研究院

出身地：宮崎県延岡市

【学歴】1986年 九州大学医学部卒業

【学位】1995年 医学博士（九州大学）

【留学】

1989～1992年 米国 ラ・ホヤ癌研究所
KRAS 蛋白翻訳後修飾について研究

【職歴】

1992年 九州大学生体防御医学研究所助手

1998年 同講師

2009年 順天堂大学医学部産婦人科講座 准教授

2012年 九州大学大学院医学研究院

生殖病態生理学分野（教授）

2015年 医学研究院副院長

2019年 九州大学病院院長補佐兼務

2026年 福岡山王病院 病院長

国際医療福祉大学 教授

九州大学名教授

【所属学会等】

日本産科婦人科学会

(2013- 現在常務理事、2023-2025 理事長)

日本女性医学学会 (2013-2023 副理事長)

日本婦人科腫瘍学会 (2014-2022 理事)

Journal of Obstetrics and Gynaecology

Research (JOGR):Editor in chief(2015-2023)

【主な研究テーマ】

婦人科腫瘍の発生機構の解明

産婦人科をめぐる医療現場は医師の地域偏在や産休後の復帰支援、学術的にはゲノムの網羅的検索が可能となり個人情報・遺伝子情報への倫理的対応が急務になっている。社会的には無侵襲的出生前遺伝学的検査 (NIPT)・着床前遺伝学的検査 (PGT-A/SR,PGT-M) めぐる問題、中絶、避妊、性暴力、性教育などのセクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (SRHR) をめぐる動き、晩婚化・晩産化・少子化への対応など課題が山積している。これらを総合的に考えるとこれからは「多様性への適応」「連携」がキーワードになる。私は1) 患者に安全安心な医療体制の構築、2) 産婦人科医師の増加、3) 医師の休職後の復帰支援の3つが重要だと考える。本講演ではこれらについて考えてみたい。